

地域丸ごと体験事業～子ども達への体験活動をとおして～

邑南町 日和公民館

1 邑南町日和地区の概要

邑南町日和地区は、邑南町の北西端に位置しており、周囲は400mから800m級の山々が連なり、標高300mから400m、東西・南北ほぼ3kmの盆地状の豊かな自然に囲まれた地区である。

日和地区は3自治会10集落で構成されており、平成30年1月末時点で、戸数180・人口426人・高齢化率44.4%であり、少子高齢化が進んでいる状況にある。

地区西部には国の名勝にも指定されている、県立自然公園「千丈溪」を有しているほか、地区内を流れる川には、国の特別天然記念物に指定されている、オオサンショウウオが数多く生息している。

主な産業としては稲作を中心とした農業が盛んであるほか、畜産や酪農も盛んに行われている。

以前は地区内に保育所や小学校があったものの、現在は邑南町石見地域の中心部の保育所・小学校へ統合され、地区の子ども達は通学バス等を利用して通っている。そのため、地域と子ども達の交流が以前に比べて少なくなりつつあり、それに伴い保護者と地域の関係の希薄化も進んでいる状況にある。

2 事業の趣旨

(1) 保育園児や小学生が町の中心部の保育所や小学校に通うようになり、以前に比べて子ども達と地域との交流が少なくなってきたことに伴い、子どもの保護者世代と地域の関係性の希薄化が進んできていることが、地区の課題の1つとなっている。

そのため、地域の「ヒト・モノ・コト」

を活用して子ども達への体験活動を提供する、地域学校「日和子ども塾」の活動をとおして、子どもと地域の交流促進だけでなく、保護者世代が体験活動の企画・実施に関われるような体制を整備することで、保護者世代と地域の関係性を強化していくことを1つのねらいとする。

また、現在日和地区では、地区の団体による働きかけにより、若者達を中心となって青年部を結成し、地区の活性化を目的とした大きなイベント（祭り）の実施に向けて動いている状況にあった。

活発化する青年部の活動の中で、公民館の地域学校「日和子ども塾」活動との連携を図り、青年部活動の支援や活発化を図ることを目的として実施した。

3 具体的な取組内容

地域学校「日和子ども塾」の体験活動を主軸として、若者層との協働を図った。

(1) 保護者世代を巻き込んだ事業展開
地域学校「日和子ども塾」では、日和地区の自治会長や各種団体の関係者が委員となって、事業の企画・運営をしている。中心となる委員は50歳代より上の年齢層となっているが、この委員の中に保護者世代を組み込み、事業の企画・運営に関われるような体制とした。



(そば打ち体験の様子)

事業企画に際しては、保護者世代を含む委員で企画会議を実施し、体験活動の内容や実施方法について協議した。また、事業実施の際には、保護者世代を含む委員中心で事業を運営した。今回は「そば打ち」と「炭焼き」を企画・実施した。

(2) 青年部活動との協働

青年部が中心となって実施する地区の大イベント（祭り）に際して、祭り会場で提供される田舎料理作りを子ども達も青年部の活動に協力する形で事業を実施した。



(日和グルメ作り体験の様子)

また、3自治会と公民館の共催事業である「クリスマス会」においては、青年部のメンバーを中心に当日の体験活動やアトラクションを企画・実施した。ジェルキャンドル作りやドローン飛行見学など、若者の目線で考えた体験活動やアトラクションを子ども達へ提供した。



(ジェルキャンドル作りの様子)

4 評価と成果

(1) 子どもに対する体験活動の企画段階から保護者世代が加わったことで、自治会関係者や各種団体関係者と保護者の間で、子ども達に体験させたいこと、学ばせたいこと等についての意見や考えを共有することができた。

(2) 今までの活動で受け身がちであった保護者世代が、事業の企画・実施に携わったことで、保護者世代の活動に対する当事者意識が少しずつ育まれてきた。

(3) 青年部が中心になって実施する祭りにおいて、子ども達の体験活動をとおして、間接的にはあるが、彼らの活動を支援することができた。

(4) 公民館活動と若者活動の協働について、若者達の考えや意見を知ることができた。

(5) 1年間の活動をとおして、保護者や青年部と公民館のネットワークを築くことが出来た。

5 今後の課題と見通し

(1) 保護者世代のより一層の巻き込み
体験活動において、事業実施の際には子どもを連れて保護者も参加するが、企画会議においての保護者の参加は、少しずつ増えてはいるがまだ少ない状況にある。個別に声かけ等の対応をしていく必要がある。

(2) 青年部活動との連携強化

青年部と公民館の活動に関する連携・協力については、少しずつ進んできているが、まだ十分な状態ではない。今後も様々な場面において、青年部と公民館との連携・協力を進めていく必要がある。

(文責：主事 片岡 翼)